

人文・社会科学系研究に関する取組

URA 川人よし恵



本スライドの構成

はじめに（参考データ）

1. 研究活動の更なる活性化のための取組
2. 研究活動のプレゼンス向上のための取組
3. 研究活動の基盤を強化するための取組

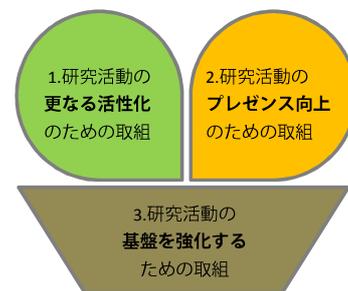
おわりに

 「人文・社会科学系研究に関するURA活動報告書 2012.06－2015.03」もご覧下さい。

はじめに

人文・社会科学系研究に関する取組の考え方

- “理系”に対する取組と大きな違いはない
- URAシステム整備事業・研究大学強化促進事業の連携で
- 取組を3つに分類、バランスと重点



(参考データ)

大阪大学は研究型総合大学

—3キャンパスに人社系15部局、教員620名* (全体の20%弱)

7/16 研究科

- 文学研究科
- 人間科学研究科
- 法学研究科
- 経済学研究科
- 言語文化研究科
- 国際公共政策研究科
- 高等司法研究科

8/28 研究所・センター

- 社会経済研究所
- 国際教育交流センター
- 総合学術博物館
- コミュニケーションデザイン・センター
- 金融・保険教育研究センター
- グローバルコラボレーションセンター
- 日本語日本文化教育センター
- 知的財産センター

(外国語学部には25言語専攻)

1. 研究活動の更なる活性化のための取組

1-1. 外部資金獲得支援

🔍 人文・社会科学系研究に関連した競争的資金の学内説明会開催
および申請支援

- 民間助成に関する情報の整理と学内での提供
- 日本学術振興会特別研究員 申請支援*
- 科学研究費補助金申請支援*

1-2. 産学連携における人文・社会科学研究分野の参画支援

- シーズ・ニーズ創出強化支援事業(イノベーション対話促進プログラム)*

*="理系"と共通の業務

1. 研究活動の更なる活性化のための取組

1-1. 外部資金獲得支援 **事例**

🔍 人文・社会科学系研究に関連した競争的資金の学内説明会開催
および申請支援

説明会と個別支援
⇒ 1件採択

公募情報に関するニーズ把握
⇒ 民間助成情報整理・提供

- 2014年5月30日(金)午後(学内説明会)、6月～8月(申請書に対する助言)
- 12部局から24人の教職員の参加
- 日本学術振興会
「課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業
(領域開拓プログラム)」⇒ 1件採択
- 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「平成26年度戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)」



1. 研究活動の更なる活性化のための取組

1-1. 外部資金獲得支援 **事例**

 人文・社会科学系研究に関連した競争的資金の学内説明会開催
および申請支援

 公募情報に関するニーズ把握
⇒ 民間助成情報整理・提供

紹介した公募情報の特徴

- トップダウン型・学際的・“応用”研究(社会的課題解決寄り)

ニーズとのギャップ
⇒ 新たな活動の種

説明会参加者の声 = 自分たちが求めているものと違った...

- 自分の研究をどのように関係付けたいのかわからない
- 国際共同研究をしたいので、予算規模が足りない
- 研究支援人材の人的費が出る研究費の公募情報を知りたい
- 民間助成も含め、分野別に年間の公募時期等を一覧にしてみたい

2. 研究活動のプレゼンス向上のための取組

2-1. 研究成果の国際的発信支援

- 英語論文投稿支援*
- 国際合同会議(シンポジウム)助成事業*

2-2. 広報・アウトリーチ活動支援

 「二頁だけの読書会」企画・運営

- 若手研究者ホームページ作成支援*

* = “理系” と共通の業務

2. 研究活動のプレゼンス向上のための取組

2-2. 広報・アウトリーチ活動支援 事例

「二頁だけの読書会」企画・運営

企業と連携した
研究者と学外の方との対話の場

参加者と「〇〇学」の出会い、
研究者自身の発見

- 学術書を入り口とするアウトリーチ
- 2013年12月立上げ、4回開催（歴史学、人類学、臨床哲学×サステナビリティ・サイエンス、演劇学）
- リソナ銀行・大阪大学出版会と連携
- 「二頁を選ぶ」というお題・デザインを楽しむ
- ゲストの専門分野に関する参加者の印象コメント



2. 研究活動のプレゼンス向上のための取組

2-2. 広報・アウトリーチ活動支援 事例

「二頁だけの読書会」企画・運営

参加者と「〇〇学」の出会い、
研究者自身の発見

強みの分析や
情報発信の種

質問・コメント、アンケート回答で、研究の社会的意義が言葉に

やはり「大阪大学＝理系」のイメージが強いが...

- 時代が変わると歴史が変わるとは、目が覚めた思いである。歴史は絶対的なものであり、その事実は変わらないと考えていた。
- 人類の知性に以前から関心がありましたが、特に、暗黙知と形式知を人類はどのように発展させたのか等、ナレッジマネジメントの視点からもおもしろいですね。
- 知ること、聞くことの必要性をしみじみと感じます。「対話する」前に他者に関心を持つこと、他者を受け入れることも合わせて。
- (演劇学とは)時代と社会と人についての研究だと思いました。世の中の色々なことに対し、問題意識を持ち、自分の考えを持つことは大切なので、現在の私たちにも共通することだと、改めて思いました。

3. 研究活動の基盤を強化するための取組

3-1.調査・分析

- 大阪大学の部局・研究者の現状把握*
- 日本における人文・社会科学研究に関する学術政策動向
- 諸外国の学術政策や人文・社会科学系研究支援等に関する動向調査

3-2.講演・セミナー・研究会

- Horizons for Social Sciences and Humanities参加報告会
- 文学研究科FD講演会「人文・社会科学研究をめぐる最近の動向」
- CSCD全学FD研究会
- 大阪大学トランスプロフェッショナル・リテラシー科研 研究会「変動期の学術基盤を考えるー オランダ調査を手がかりにー

*=“理系”と共通の業務

3. 研究活動の基盤を強化するための取組

3-3.人文・社会科学系研究に関する意見収集・議論の場の創出

- 大阪大学の人文・社会科学系研究者を対象にした科研費に関するアンケート調査



第1回人文・社会科学系研究推進フォーラムの企画・運営

3-4.学内外ネットワークの構築

- 学内の関連部署または担当者との連携・協働
- 他大学URAとの連携・協働

3. 研究活動の基盤を強化するための取組

3-3.人文・社会科学系研究に関する議論の場の創出

🔍 第1回人文・社会科学系研究推進フォーラムの企画・運営 **事例**

—人文・社会科学系研究推進に必要な共通基盤整備を考えよう

🔍 立場・組織を超えた
対話の場＝研究推進の基盤

大学間ネットワークによる
URA活動の新たな展開

- 2014年12月22日(月)午後@阪大豊中キャンパス
- 大阪大学・筑波大学・京都大学のURAが企画・運営
- 研究者、URA、事務系職員等84名が参加(19大学等)
- 文部科学省審議会関係者の基調講演、3分野研究者とURAからの話題提供、グループディスカッション、全体討論



3. 研究活動の基盤を強化するための取組

3-3.人文・社会科学系研究に関する議論の場の創出

🔍 第1回人文・社会科学系研究推進フォーラムの企画・運営 **事例**

—人文・社会科学系研究推進に必要な共通基盤整備を考えよう

🔍 立場・組織を超えた
対話の場＝研究推進の基盤



EARMA2013年次大会での人文・社会科学系研究に関するセッション“ What future for the SSH in the European Research Area?”(2013年7月)



リトアニアで開催された EU公式国際会議Horizons for Social Sciences and Humanities (2013年9月)

現場と
意志決定の場を
つなぐ種



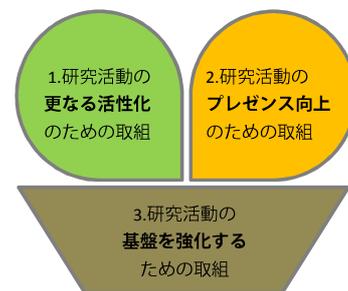
おわりに

- これまでの取組の継続
- 新たな展開...

ニーズとのギャップ
⇒新たな活動の種

強みの分析や
情報発信の種

現場と
意志決定の場を
つなぐ種



ご清聴ありがとうございました。

大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室
URAチーム 川人よし恵

kawahito@lserp.osaka-u.ac.jp